

切れ目のない 医療・介護のネットワークづくり

明けましておめでとうございます。昨年9月の総選挙で自民党が大敗し、民主党を中心とする新しい政権が生まれました。新しい政権のもとで社会保障はどうなるのか、協会グループとして急性期から入院、リハ、在宅、介護などの医療をどのように展開していくのか、新年の抱負などについて座談会で語っていただきました。

座談会参加者

- 司会／大間知哲哉〈横浜勤労者福祉協会専務理事〉
- 窪倉 孝道〈汐田総合病院院長〉
- 長浜 政博〈汐田診療所所長〉
- 片倉 博美〈社会福祉法人うしおだ専務理事〉
- 松尾ゆかり〈うしおだ総合ケアセンター事務局長〉
- 宮下 泉〈よこはま健康友の会会長〉



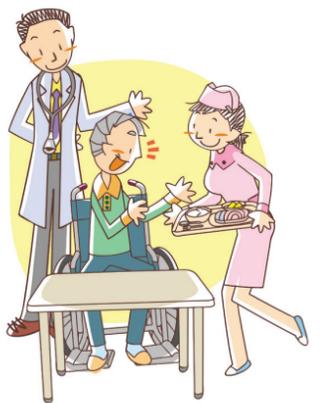
司会(大間知専務)：早速ですが、窪倉院長に昨年を振り返り、新年の抱負などを語っていただければと思います。

1 医療崩壊の中 医師・看護師確保で前進



汐田総合病院院長 窪倉 孝道

窪倉：昨年は、全国的には「医療崩壊」という言葉が医療関係者以外にもよく知れ渡った年だったと思います。そうした思いが政権交代の原動力となり衆議院選挙にも反映していると思います。しかし、政権交代した今でも医療崩壊は進行中で、救急、小児科、産科だけの問題ではなく、医療全体にその広く広がっていると思います。病院の多くは赤字で、病院倒産も増えています。そうした中で、汐田総合病院では日本医療評価機構による最新版の病院機能評価を受け、おおむねの認定基準をクリアしました。



アしました。これは、病院の機能が一定水準であることを第3者評価するもので、病院の水準維持と信頼獲得に不可欠のものとして5年ごとに受けているものです。そうした中で、看護師確保の成果が上がって249床の全病床稼働にこぎつきました。これまで、看護師不足でせっかくの地域の財産であるベッドが開けなかったことを考えると、大きな前進だと思います。病院勤務医の不足が続く中で、当院で臨床研修を志す新卒医師を来年度も2名確保できたことも大きな成果だと思っています。

2 包括評価する会計方式(DPPC)の導入とは

窪倉：従来の入院会計は出来高支払い制度と呼ばれ、お薬・注射・検査など実施した項目の診療行為の点数を積み上げて計算するものでした。これに対して包括評価では、患者さまの病名や症状をもとに、厚生労働省から定められた1日当たりの診断群分類点数を包括的に医療費とし

て支払う新しい会計方式です。全国の急性期病院(病床)がこの会計方式に移行しており、急性期医療を実施する条件になる可能性があり、当院でも2年間の準備を経てこの制度の適応を申請することにしました。新病院の開院以来、さまざまな課題を乗り越えて病院は常にバージョン

アップしてきました。**司会**：協会理事会は、新しい汐田診療所を来年4月オープンを目指すこと決定しています。土地確保も大詰め

3 3つの施設を一体化した新汐田診療所



汐田診療所所長 長浜 政博

長浜：老朽化した汐田診療所の将来を考えたとき、移転あるいは建替が必要との結論となりました。新しい汐田診療所はヘルスクリニックと歯科診療所をあわせ三つの施設を一体化した診療所になります。新診療所建設委員会で医療構想を練っているのですが専門医療も一部残しますが基本的に家庭機能を重視して気軽に何でも相談でき全身管理を長期にわたり行い、健康を維持していくというような医療をめざしたいと思っています。また必要な病院などの、よ

りを迎えてきました。長浜所長に新しい診療所の医療構想などをお話しいただければと思います。

4 今まで以上に病院との連携を



長浜：そうですね、病院にはマンパワーもありますし検査、治療機器も充実していますからいざというときは頼りになる存在ですね。病院のベッドはいつも満床に近い状態ですので診療所の患者さんの入院が必要になった時に、スムーズに入院できる体制を整えるためにも、今まで以上に緊密な連携が不可欠だと思います。

会の皆さんから今か今かと待たれています。土地が決まれば、具体的な診療所建設が表に出てきますから、会員宅をおおいに訪問し、班づくりや「出資金」の取り組みに励まなければなりません。昨年の「会員拡大月間」で「大腸がん検診」を呼びかけながら班を組織することができました。地域でもおおいに話題にし、この地域での民医連診療所の再生的

司会：新しい診療所建設については、友の会の皆さんはおおいに期待していると思いますがいかがでしょうか。
宮下：診療所の建替えは地域や友の



よこはま健康友の会会長 宮下 泉



社会福祉法人
うしおだ専務理事
片倉 博美

は、2002年4月に認知症のグループホーム菜の花の家を開設以来、事業所を増やしてきましたが、

が必要となつてきています。この連携を強化するために、汐田総合病院の中に「総合ケアセンター」という部署をつくりました。

な取り組み、地域の活性化にも役立つような取り組みをしたいと思ひます。友の会が診療所の建設運動を大きく成功させる支えになるようがんばりたいと思います。



より重要なものとなります。在宅療養支援診療所の強化とあわせて、居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションの強化は、医療と介護の「要」となります。DPC病床の稼働が実

汐田総合病院のDPC病床の認可申請により、地域での受け皿となる今後の在宅医療や在宅介護の強化が

昨年4には財団法人より4つの在宅系事業所を統合し、職員数も常勤・非常勤を合わせると150名近くになりました。年間収益も3億5千万円規模となり、地域に与える影響も

大きなものとなりました。昨年10月には、私たちの法人を物心両面にわたって応援してくれるサポーター組織「社会福祉法人うしおだを支える会」も発足しました。今年2月には、

長浜：汐田診療所から在宅部門が独立して病院近くに在宅クリニックとして移転しました。海側の患者さんも多くなります。新しい汐田診療所

6 新診療所でも在宅医療を展開



は主として海側を受け持ち徐々に多くの患者さんを受け入れるようにしたいと思っています。そのことで在宅クリニックが山側への更なる展開

司会：たいへんお忙しい中ありがとうございます。今年、汐田総合病院のDPC病院への移行、新汐田診療所建設準備の年になります。地域の皆さんの財産でもある病院、診療所、介護事業所が各自の役割を果たしながら、地域で安心して暮ら

の総合相談窓口、地域を巻き込んだマネージメントの要として、地域連携とケアマネージャー、ソーシャルワーカーが一つの部署で業務にあたることは地域の皆さんのニーズにたえやすいのでないかと思つていま

かという、医療と生活との関係性についてグループ全体で認識を改めることではないかと思ひます。医療はあくまで生活の一部であつて、患者・利用者さんにとつては生活と生活の質がすべてなのです。だから、なるべく患者・利用者さんを生活の場で援助してゆくことこそが大切なのだ、ということをしつかり押さ



横浜勤労者福祉協会
専務理事
大間知哲哉

ていけるようなネットワークづくりに取り組んでいきたいと思つていま。これは、私たちグループだけでなく、まわりにある医療機関、介護事業所の皆さんとも力を合わせて取り組んでいきます。友の会の皆さんには、今まで以上に健康を守る運動を広げながら、ご支援、ご協力をお願いします。

そのためには何が求められているかという、医療と生活との関係性についてグループ全体で認識を改めることではないかと思ひます。医療はあくまで生活の一部であつて、患者・利用者さんにとつては生活と生活の質がすべてなのです。だから、なるべく患者・利用者さんを生活の場で援助してゆくことこそが大切なのだ、ということをしつかり押さ

なくてはいけない。こんな状態だから在宅に戻せないとか、逆に在宅では対応できないとか言つて、患者・利用者さんを施設に長く入所させてほしくない。施設しかないという選択や施設にお世話にならなくては

松尾：総合ケアセンターは、医療相談室、ソーシャルワーカーと地域連携室、それにケアマネージャーという3つの職種が一体になり、受診相談から退院、そして在宅生活のサポートまで連続性を持って援助する部署です。



うしおだ総合ケアセンター事務局長
松尾 ゆかり

5 在宅をささえるネットワーク



また、病院にいると、退院がゴールに思えますが、実はその後の生活が基本です。そういう視点が重要だと思ひます。いろんな意味で、地域の総合相談窓口、地域を巻き込んだマネージメントの要として、地域連携とケアマネージャー、ソーシャルワーカーが一つの部署で業務にあたることは地域の皆さんのニーズにたえやすいのでないかと思つていま

社会保障制度の問題から、医療にかかることも出来ない患者さんや、在宅介護をしたくても仕事を止めると生活できない方、老老介護でぎりぎりなのにサービスが利用できない方、施設入所したくても経済的にま

が図られるようになり、両方の診療所合わせて協会の在宅医療の中核を担うことが出来ればと思ひます。

窪倉：横浜勤労者福祉協会グループも大変大きくなりましたが、中核部分は医療系の財団法人(病院、診療所)と介護系の社会福祉法人(老健、グループホーム、訪問看護、ヘルパーステーション、居宅介護支援センターなど)とに分かれました。しかし、この区分けも見方を変え

